



令和5年9月28日

(お知らせ)

京都市文化市民局  
〔 担 当 元離宮二条城事務所 〕  
TEL (075) 841-0096

「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 令和5年度秋期  
菊と扇 ～ 〈黒書院〉 四の間～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示收藏館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しております。この度、秋期原画公開「菊と扇 ～ 〈黒書院〉 四の間～」の開催について詳細が決まりましたので、お知らせします。今回は、秋の風情に満ちた黒書院四の間の障壁画を展示します。四の間すべての障壁画を同時に展示するのは今回が初めてです。浮彫のように見える菊の花や、一つとして同じ図様のない46面もの扇面図を間近からご覧いただけます。

是非、この機会に二条城へお越しください。

#### 1 会期

令和5年10月5日（木）～12月3日（日）〔60日間〕

#### 2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分）

※ 二条城の入城受付は、午後4時まで。

#### 3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示收藏館

（〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

※ 二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

#### 4 入館料

100円（未就学児無料）

※ 別途入城料が必要です。

※ 市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

#### 5 公開作品

(1) 〈黒書院〉四の間障壁画《菊図（きくず）》《秋草扇面散図（あきくさせんめんちらしず）》

（障壁画面数：30面）

(2) 解説及び見所 裏面のとおり

#### 6 お問い合わせ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〔 〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地  
TEL：(075) 841-0096 FAX：(075) 802-6181 〕

## 菊と扇 ～ 〈黒書院〉 四の間～

〈黒書院〉は、寛永3年(1626)に後水尾天皇(1596～1680)が行幸した際には、「小広間」と呼ばれ、天皇に従ってきた宮家、門跡、公家衆を饗応する場となりました。四の間は、公家衆の席であったと記録されています。

四の間は、「菊の間」とも呼ばれたように、長押の下の襖や壁には大小の菊が、いくつかの種類なげしの垣根に沿って咲き誇る様子が描かれています。菊の花と垣根は、貝殻が原料の白の絵の具ごふん(胡粉)を厚く塗って描かれており、浮彫のように見えます。垣根の奥にはところどころ群青の水辺が見えます。籬まがき(垣根)と菊と流水は、菊を愛した中国の詩人陶淵明とうえんめいの詩の一節や、菊から滴った露が流れる水を飲んで長寿を得たという菊水の故事、そしてその故事から生まれた「菊慈童」や「枕慈童」といった能の演目等、和漢の様々な文芸作品を連想させる主題です。

長押の上には、風に揺らぐ薄すすきを背景に、大小合わせて46面の扇が散らされています。扇の形は、扇の折り目を示すものと、きれいに円弧を描くものの二種類に描き分けられています。46面の扇面の図様は一つとして同じものはなく、花鳥草木から水墨山水、大和絵やまとえの景物から紋様に至ります。背景に描かれている薄は穂が出ており、季節は秋であることが明確です。夏に涼をとるために使用する扇は、秋にはもはや不要です。この主題は、皇帝の寵愛を失った我が身を秋の扇に例えたとされる中国の後宮の女性が詠んだ詩を淵源とし、日本では和歌等の主題となり、やはり「班女」という能の演目になりました。

このように長押の上下ともに、能の演目を連想させる画題となっていますが、よく知られているように、能さるがく=猿楽は、朝廷、公家、上級の武家階級で愛好されました。二条城でも徳川家康とくがわいえやす(1543～1616)以来、たびたび猿楽の宴が催されており、後水尾天皇の行幸でも四日目に上演されました。その日の演目には「菊慈童」も「班女」も含まれていませんが、〈黒書院〉四の間の障壁画は、和漢の文学的素養を持つ当時の公家や上級武家に、能の演目を含め、さまざまな文芸作品を想起させたことでしょう。



〈黒書院〉四の間障壁画《菊図》部分



〈黒書院〉四の間障壁画《秋草扇面散図》部分